



国際日本文化研究センター 一般公開 所蔵資料展示

『絵巻物・錦絵にみる日本の妖怪』

出品目録・解説

妖怪スタンプは
ここに押してね！



開催日：平成 22 年 10 月 21 日(木)

会場：国際日本文化研究センター 講堂ホワイエ

～絵巻物～

1. 百鬼夜行絵巻 ヒヤッキヤギョウエマキ

作者不明 江戸時代 28×681cm

祖本は、室町時代に描かれた唯一の絵巻で、これは江戸時代の模写と思われる。妖怪の大半がいわゆる「付喪神」と称する小道具の妖怪で占められている。この系統の絵巻の登場以降、「百鬼夜行」とは道具の妖怪たちの行列、つまり「百器夜行」とイメージされる傾向が強くなった。巻末の火の玉の表現は異なるものの、描かれている妖怪の種類は、「百鬼夜行絵巻」の基準とされている大徳寺所蔵の真珠庵本と同じである。ただし、図像の配列は、真珠庵本の一部を移動した形になっていて、この伝本のほうが、図像配列の点で祖本に近い可能性がある。

2. 百鬼ノ図 ヒヤッキノズ (複製)

土佐吉光画 江戸時代前期 33×697cm

江戸時代前期の模本だが、図柄や筆致などから、祖本は室町時代の制作と判断できる。道具の妖怪の図柄に特化した真珠庵本と一致する図柄がなく、動物や魚介や道具などの多様な妖怪が描かれ、『鳥獣人物戯画』や『御伽草子絵巻』などの先行絵巻の影響が色濃くあらわれている。真珠庵本では太陽や火の玉を思わせるものの出現によって絵巻は終わるが、この『百鬼ノ図』では巨大な黒雲の中から出現する異形の者の登場によって終わるところが特徴である。

3. 化物婚礼絵巻 バケモノコンレイエマキ

作者不明 江戸時代 30×1201cm

化物たちの婚礼の様子を描いた絵巻。媒酌人が見合い話を持ってくるところから、結納、嫁入りの行列、婚礼、懐妊の祝い、出産、宮参りと、人間の婚礼とほぼ変わらない様子で描かれている。展示されているのは、化物たちの嫁入行列の場面である。先導役を赤鬼が務め、ろくろ首が肩ではなく首を棒に巻きつけて駕籠をかつぎ、一本足の提灯が行列の足元を照らしている。駕籠の中には、白無垢に身を包んだ花嫁の姿が見えている。

4. 付喪神絵詞 ツクモガミエコトバ (新収資料)

作者不明 製作年不明 20×1850cm

「付喪神」とは古道具の妖怪のことである。この絵巻には、立春の煤払によって路頭に捨てられた古道具たちが、いかにして妖怪に変化し、どのような悪行をなしたか、さらにはいかにしてその妖怪が退治され、成仏したのかといったことが、一連の物語として、絵とともに語られている。

5. 化物尽絵巻 バケモノヅクシエマキ

北斎季親画 江戸時代 40×798cm

全部で23体の妖怪が描かれている。それぞれの名前は右から順に、親白眼、大地打、どふもこうも、さら蛇、身の毛立、のぶすま、馬鹿、はぢつかき、おどろし、夢の精霊、山姥、犬神、ろくろくび、亡魂、牛鬼、山童、ぶらり火、うはん、赤舌、雪女、きつね、猫また、髪切と記されている。

6. 土螿蠸草子 ツチグモノソウシ

小田切直 [写] 江戸時代末期 33×1081cm

酒天童子討伐で有名な源頼光が、化物屋敷に迷い込み、土蜘蛛を退治するまでを描く絵巻。展示は下巻。

(あらすじ) 蓮台野へ赴いた源頼光と渡辺綱は空飛ぶ髑髏に遭遇する。そのあとをつけると古い屋敷に辿り着くが、そこは次々と化け物が姿を現す化物屋敷だった。最後には、巨大な鬼のような化物が姿を現し、戦いの末、妖怪を倒すと、その正体は巨大な土蜘蛛であった。

7. 田原藤太秀郷 タワラトウタヒデサト

英一蝶画 江戸中期 上：36×1262cm 中：36×1253cm 下：36×1013cm

全三巻のうち上巻を展示。

(上巻あらすじ) 近江国瀬田の唐橋(からはし)に大蛇があれわれ人々の往来を妨げていると、田原藤太は悠然とその背中を踏みつけて渡ったので、大蛇は女の姿にかわり、その剛勇を見込んで三上山の百足(むかで)退治を依頼する。藤太が見事に百足を退治すると、女は竜宮に招いて饗応し、竜王は釣鐘などの宝を与えた。

～錦絵など～

8. 丹波國大江山之圖

たんばのくにおおえやまのず

歌川芳艶画 江戸時代 木版色刷

9. 大江山酒呑退治

おおえやましゅてんたいじ

歌川芳艶画 江戸時代 木版色刷

10. しん板化物尽し

ばんばけものづく

歌川芳盛画 刊年不明 木版色刷

11. 大新板化物飛廻双六

おおしんばんばけものどびまわりすごろく

刊年不明 木版一枚刷

「双六集」のうちの一つ

12. 羅城門渡邊綱鬼腕斬之圖

らじょうもんわたなべつなおいとうできりのず

月岡芳年画 明治時代 木版色刷

13. 茂林寺の文福茶釜

もりんじ ぶんふくちやがま

月岡芳年画 明治時代 木版色刷

14. 本朝振袖之始 素盞鳥尊妖怪降伏之圖

ほんちょうふりそでのはじめすきのおのみことようかいこうふくのず

江戸川北輝画 江戸時代 木版色刷

15. 画本西遊記百鬼夜行ノ圖

えほんさいゆうきひゃっきやぎょうのず

玉園戯画 木版色刷

- ぎょうさいひやつきがだん
16. 暁斎百鬼画談
河鍋洞郁画 明治22年刊 和装(折り本)

- かいぶつえほん
17. 怪物画本
作者・刊年不明 和装



～ちりめん本～

ちりめん本は、和紙に印刷してから紙を絞って仕上げた本のことで、皺の寄った表面が絹織物の縮緬に似ていることから名づけられた。「日本昔噺」シリーズ (Japanese fairy tale series) は、英語版のほか、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語版も作られて人気を博した。色刷りの挿絵は、絵巻物や錦絵とのつながりを感じさせる。

18. 大江山 - The ogres of Oyeyama
明治24年刊

24. 桃太郎 - Momotaro
明治18年刊

19. 癩取 - The old man & the devils
明治19年刊

25. 舌切雀 - The Tongue cut sparrow
明治18年刊

20. 八頭の大蛇 - The Serpent with eight heads
明治19年刊

26. 文福茶釜 - The wonderful tea kettle
明治29年刊

21. 鼠の嫁入り - The mouse's wedding
明治21年刊

22. 羅生門 - The ogre's arm
明治22年刊

23. 俵の藤太 - My lord bag-o'-rice
明治20年刊